

2022年度環境経営活動レポート

対象期間：2022年7月～2023年6月



®環境省
エコアクション21
認証番号0004315

マトヤ技研工業株式会社
2023年6月30日発行

目 次

1. 経営理念	．．．． 3
2. 環境経営方針	．．．． 4
3. 組織の概要	．．．． 5
4. 認証・登録の対象組織・活動	．．．． 7
5. 2022年環境目標とその実績・評価	．．．． 8
6. 2022年環境目標の取り組み計画と評価	．．．． 9
7. 2023年度の取り組み	．．．． 10
8. 環境関連法規等の順守状況	．．．． 11
9. 代表者による全体の見直しと評価	．．．． 12
10. 環境活動の紹介	．．．． 13

1. 経営理念

- 社会的信頼と責任

会社を取り巻く人々と誠意を持って協調し、お客様の視点で考え、お客様に安心して安全な機械装置を提案し、社会的信頼と責任を果たします。

- 会社の発展

永続的発展を第一とする健全経営を推進し、業界の先頭に立ち、絶えず新技術を創造し、社会から支持され、信用される企業経営に努めます。

- 社員の幸福

社員の幸福の達成に努め、社員は産業人として絶えず研鑽に努め、創意工夫と進取挑戦の精神で仕事に取り組みます。

2. 環境経営方針

マトヤ技研工業株式会社 環境経営方針

人類の利便性を求める経済活動が一方では地球環境の破壊に繋がり、人類の存在を脅かしています。マトヤ技研工業は、「社会的信頼と責任・会社の発展・社員の幸福」という経営方針を達成する為に「低炭素・循環型・自然共生社会」を考慮し、省力化・環境配慮機器の開発、製作、販売事業、並びに有益な社内環境活動を通じ、持続可能な社会環境を追及してまいります。

1. 事業活動全般における電力・燃料等のエネルギーの効率利用や水資源の有効利用による環境負荷及びコスト削減を追及し、最適な企業活動を目指します。
2. 省力化機器メーカーとして、お客様に省力化や環境配慮商品を供給し、労働負荷や環境負荷並びにコスト軽減に貢献する企業を目指します。
3. 業務及び製作工程における一般・産業廃棄物の発生を抑制し、発生物は資源への還元を目指します。
4. 当社周辺の緑豊かな地域に鑑み、化学物質の適正保管と使用、排出抑制を行なうと共に生態系への影響の少ない物質への切替えに取り組みます。
5. 地域に育まれる企業として、地域周辺の環境保全に全社員で取り組みます。
6. 環境保全活動をシステムの的に運営し、定期見直しを行い、継続的改善・汚染の予防を積極的に実施します。
7. 環境関連法規及び同意したその他の要求事項を順守する等コンプライアンスの向上を目指します。
8. この環境方針は、当社の環境活動の指針として全従業員に周知し、一般の方に公開します。

制定日：2008 年6 月1 日

改定日：2021 年7 月1 日

代表取締役 豊増 敏夫

3. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

マトヤ技研工業株式会社
代表取締役 豊増 敏夫

(2) 所在地

本 社 〒899-8608
鹿児島県曾於市末吉町南之郷3050-6
宮崎工場 〒885-0063
宮崎県都城市梅北町11267
大阪営業所 〒561-0853
大阪府豊中市服部南町1-4-10
東京営業所 〒340-0815
埼玉県八潮市八潮6-16-4
セレクト21八潮南 1号室

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 今村 明 (製造部 次長)
環境事務局 井之上 知美 (総務部)
連絡先 TEL 0986-76-0018
FAX 0986-76-2729
E-mail info@matoya.com

(4) 創 業 1985年6月

益留、豊増、山内 の三名で創業。
それぞれの頭文字からマトヤと名付ける

(5) 事業内容 自動省力機器設計・製作および販売



鶏ボンジリ脱骨機で九州地区ものづくり日本大賞を受賞



センマイ洗浄機で宮崎県中小企業大賞を受賞



地域未来牽引企業
地域未来牽引企業に経済産業省
から選定されています。

(6) 事業の規模（2022年度：2022年7月～2023年6月）

売上高 1,692百万円

従業員 全体(62名)	本社	宮崎工場	大阪営業所	東京営業所
	37名	19名	2名	4名

(7) 当社のプロセス



食肉・食品関連機械と電子部品生産システム自動車部品・クーラント関連機械の3部門 特許、実用新案 は 30 件

<主な製品>

新製品



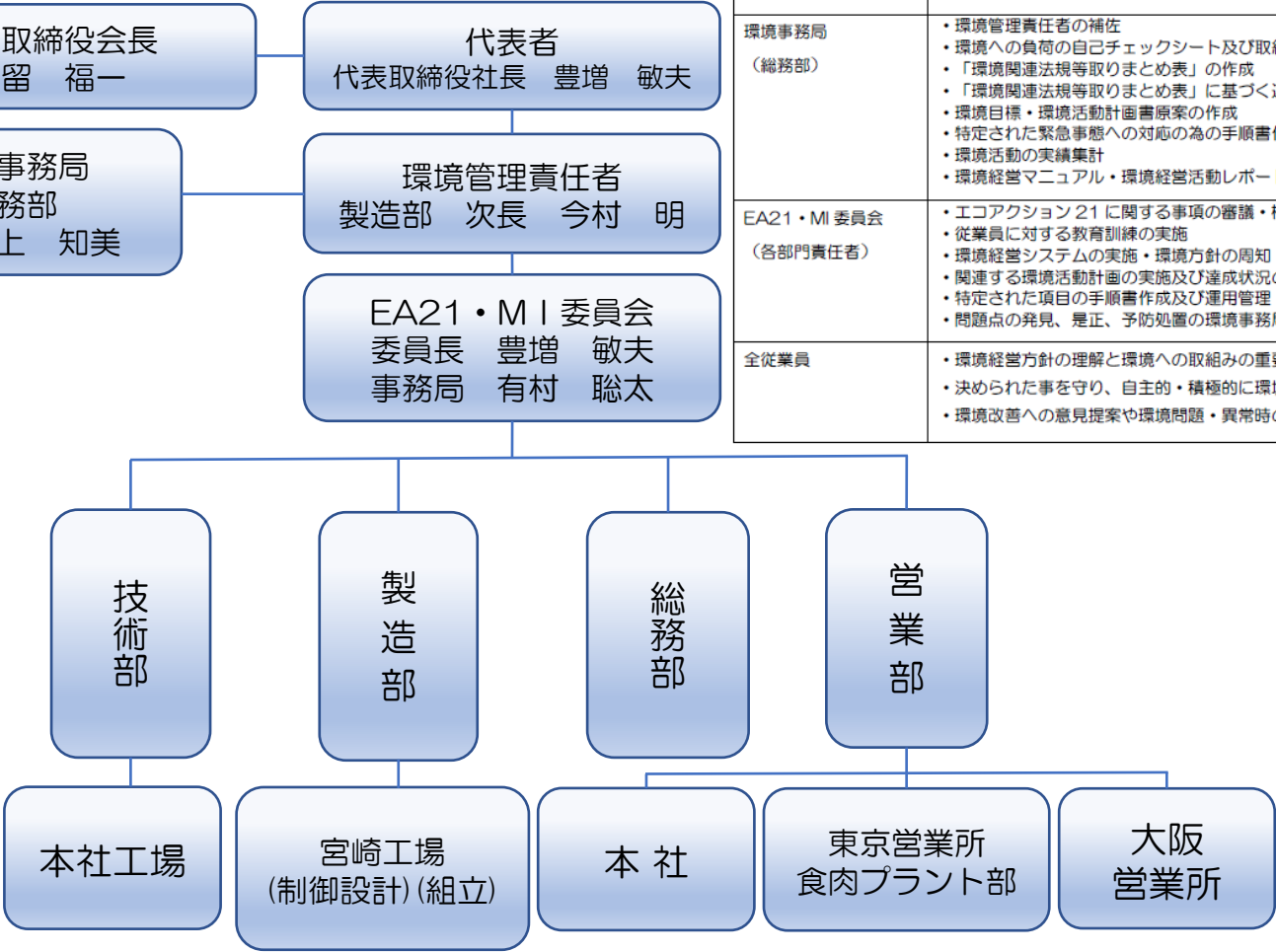
4. 認証・登録の対象組織・活動

適用範囲：マトヤ技研工業株式会社 本社・宮崎工場

大阪営業所・東京営業所

事業範囲：自動省力機器設計・製作及び販売

担 当	役割・責任・権限
代表者 (代表取締役)	- 環境経営に関する統括責任 - 環境管理責任者を任命 - 環境経営方針の策定・及び全従業員への周知 - 環境目標・活動計画書の及び承認 - 代表者による全体の評価と見直しを実施 - 環境経営活動レポートの承認
環境管理責任者 (製造部 次長)	- 環境関連法規等のとりまとめ表を承認 - 環境目標・活動計画書を確認 - 環境経営マニュアルの承認・環境経営活動レポートの確認 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
環境事務局 (総務部)	- 環境管理責任者の補佐 - 環境への負荷の自己チェックシート及び取組み自己チェックリストの実施 「環境関連法規等取りまとめ表」の作成 「環境関連法規等取りまとめ表」に基づく遵守評価の実施 - 環境目標・環境活動計画書原案の作成 - 特定された緊急事態への対応の為の手順書作成、テスト・訓練・記録 - 環境活動の実績集計 - 環境経営マニュアル・環境経営活動レポートの作成、公開
EA21・MI委員会 (各部門責任者)	- エコアクション21に関する事項の審議・検討 - 従業員に対する教育訓練の実施 - 環境経営システムの実施・環境方針の周知 - 関連する環境活動計画の実施及び達成状況の環境事務局報告 - 特定された項目の手順書作成及び運用管理 - 問題点の発見、是正、予防処置の環境事務局報告
全従業員	- 環境経営方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚 - 決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加 - 環境改善への意見提案や環境問題・異常時の上司への報告



※MIとは
M:matoya
I:improvement
の意味。マトヤの改善

大阪営業所は、電力・水資源・廃棄物は非管理の為、自動車燃料等の削減のみ適用する

5. 2022年度 環境目標及びその実績・評価

1. 二酸化炭素排出量の削減

	目標	実績
① 電力の削減：基準年比	本 社	△1% → △5.4%
	宮 崎	△1% → 25%
	東 京	△1% → —
② 燃料の削減：基準年比	本 社	△1% → △13%
	東 京	△1% → △9.4%
	大 阪	△1% → 70.4%

2. 産業廃棄物の削減：リサイクル率 87% → 92.2%

3. 水使用量の削減：基準年比	本 社	△1% → 3.2%
	宮崎工場	△1% → △4%

4. 化学物質の低減：化学物質の保管管理及び保管場所の徹底清掃

5. 環境配慮製品の開発及び販売促進

① クーラント製品及び遠心分離機等	
② 業務用 光触媒環境浄化装置	
販売目標 68台	実績40台

7. 地域清掃活動

2022年度	目標	50回	実績	51回
--------	----	-----	----	-----

8. 一般廃棄物：活動は行っていますが、少量の為レポートには記載しない

☆大阪営業所では、電力と水資源と廃棄物は共有の為管理できませんので、自動車の燃料CO₂の削減のみ行いました。
評価は、○は達成、×は未達成

※1) 購入電力のCO₂排出係数は、九州電力の2021年度調整後排出係数0.389kg-CO₂/kWhで、算出しています。
※2) 購入電力のCO₂排出係数は、東京電力の2021年度調整後排出係数0.451kg-CO₂/kWhで、算出しています。
※3) 基準年度：2019・2020・2021年度実績の平均値です
※4) 基準年度：2017・2018・2019年度実績の平均値です

項 目			基準年度	2022年度 2022年7月～2023年6月		
			2021年度	目標	実績	評価
売上高		百万円	850	-		-
電力の削減	本社	kg-CO ₂	※1 33,070	32,739 △1%	31,277 △5.4%	○
	宮崎	kg-CO ₂	※1 11,815	11,697 △1%	14,776 25%	×
	東京	kg-CO ₂	※2 —	—	1,091	-
	合計	kg-CO ₂	—	—	47,144	-
燃料CO ₂ 排出量	本社	kg-CO ₂	37,799	37,421 △1%	32,837 △13%	○
	東京	kg-CO ₂	11,560	11,444 △1%	10,478 △9.4%	○
	大阪	kg-CO ₂	3,508	3,473 △1%	5,978 70.4%	×
	合計	kg-CO ₂	52,867	52,338 △1%	49,293 △6.8%	○
産業廃棄物排出量		リサイクル率	※4 87%	87%	92.2%	○
水資源排出量	本社	m ³	※3 186	184 △1%	192 3.2%	×
	宮崎工場	m ³	※3 177	175 △1%	170 △4%	○
化学物質の適正管理と清掃		回	36	36	48	○
環境配慮製品販売量		台	※3 60	60	40	×
地域清掃活動		回	※3 50	50	51	○

6. 2022年度 環境活動の取り組み計画と評価

◎よくできた ○できた
△あまりできなかった ×できなかった

取り組み計画	達成状況	評価	取り組み計画	達成状況	評価
電力による二酸化炭素排出量の削減			産業廃棄物(廃プラ) の削減		
冷房温度28℃設定	○	本社・宮崎工場エアコン室外機の遮熱カバーを取り付けました。	委託処分廃棄物の削減	○	分別は、よくできています。
暖房温度の18℃設定	○		工事での産廃の分別徹底	○	
不要休憩時間照明の消灯	○		産廃ボックスへの廃棄物の最小化	○	
OA機器のこまめOFF	○				
エアコンフィルタの定期清掃	○		節水		
エアコン室外機遮熱カバー取付	◎		雨水の有効利用（洗車等）	◎	本社の方だけ洗車時に雨水を活用しています。
冷房は室温が30度以上になったら付ける	○		蛇口はこまめに閉める	○	
本社電力削減合計＝616 kg-CO ₂	○				
自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減			化学物質の低減		
急加速発進の抑制	○	自動車は、プロボックス2台を購入しました。いずれもエコカーです。	化学物質の保管管理及び清掃	◎	毎月、キッチンと管理も清掃も行って、在庫を増やさない努力をしました。
冷暖房の控え目使用（27℃）	○		塗装場清掃徹底1回/月(年12回)	◎	
買換え時はエコカーを購入する	◎		在庫管理を行い在庫を減らす	◎	
一般廃棄物の削減			製品への環境配慮		
裏紙利用両面印刷コピーの徹底	◎	グループウェアの導入で、ペーパーレス化が進みつつあります。	クーラント製品等の販売	△	目標台数には至りませんでした。
ペーパーレス化の推進	○		業務用光触媒環境浄化装置の販売	△	
ミスプリントを減らす	○				
雑誌カタログ段ボールの再生利用への徹底	◎		社会貢献		
シュレッダー廃紙のリサイクル化	◎		公民館の清掃	○	毎週水曜日夕方からの掃除を本社・宮崎工場の全社員で取り組んでいます。
納入業者へ段ボールの引き取り依頼	◎		周辺道路の清掃	◎	

7. 2023年度の
取り組み

大阪営業所の電力・水資源・廃棄物目標は、共有の為管理できませんので、燃料CO₂排出量の削減の取組を行います。
☆両営業所では、環境方針等の掲示や環境活動レポートやマニュアルの設置。そして定期的な環境学習。

基準年度は、2022年
※3カ年平均値は、2020・2021・2022年度実績の平均値です。
※1) のみ、2017・2018・2019年度の実績平均値です。

項 目			基準値	2023年度目標 2023年7月～ 2024年6月	2024年度目標 2024年7月～ 2025年6月	2025年度目標 2025年7月～ 2026年6月
電力の削減	本社	kg-CO ₂	2022年 31,277	Δ1% 30,964	Δ2% 30,651	Δ3% 30,339
	宮崎工場	kg-CO ₂	2022年 14,776	Δ1% 14,628	Δ2% 14,480	Δ3% 14,332
	東京営業所	kg-CO ₂	2022年 1,139	Δ1% 1,128	Δ2% 1,116	Δ3% 1,105
	合計	kg-CO ₂	47,192	46,720	46,247	45,776
燃料CO ₂ 排出量	本社	kg-CO ₂	2022年度 32,837	32,509 Δ1%	32,180 Δ2%	31,852 Δ3%
	東京	kg-CO ₂	2022年度 10,478	10,373 Δ1%	10,268 Δ2%	10,163 Δ3%
	大阪	kg-CO ₂	2022年度 5,978	5,918 Δ1%	5,858 Δ2%	5,798 Δ3%
	合計	kg-CO ₂	2022年度 49,293	48,800 Δ1%	48,307 Δ2%	47,814 Δ3%
産業廃棄物排出量		リサイクル率	3ヶ年平均値 ※1) 87%	87%	87%	87%
水資源 排出量	本社	m ³	3ヶ年平均値 182	180 Δ1%	178 Δ2%	176 Δ3%
	宮崎工場	m ³	3ヶ年平均値 172	170 Δ1%	168 Δ2%	166 Δ3%
化学物質の適正管理と清掃		回	2022年度	48	48	48
環境配慮製品販売量		台	3ヶ年平均値 50	50	50	50
地域清掃活動		回	3ヶ年平均値 50	50	50	50

(2) 2023年度活動計画

取 り 組 み 計 画		
電力の二酸化炭素排出量の削減 ・冷房温度28℃設定 ・暖房温度の18℃設定 ・不要・休憩時間照明の消灯 ・OA機器のこまめOFF ・エアコンフィルターの定期清掃 ・宮崎工場天井に扇風機取付（検討）	一般廃棄物の削減 ・裏紙使用・両面印刷コピーの徹底 ・ペーパーレス化の推進 ・ミスプリントを減らす ・雑誌、カタログダンボールの再生利用への徹底 ・シュレッダー廃紙のリサイクル化 ・納入業者へ段ボールの引取り依頼	節水 ・雨水の有効利用（洗車等） ・蛇口はこまめに閉める 化学物質の低減 ・化学物質の保管管理及び清掃 ・塗装場清掃徹底1回/月(年12回) 製品への環境配慮 ・クーラント製品 ・業務用光触媒環境浄化装置の販売
自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減 ・急加速発進の抑制 ・冷暖房の控えめ使用（27℃） ・買換え時はエコカーを購入する	産業廃棄物（廃プラ）の削減 ・委託処分廃棄物の削減 ・工事での産廃の分別徹底 ・産廃ボックスへの廃棄物の最小化	社会貢献 ・公民館の清掃 ・周辺道路の清掃

8. 環境関連法規制等の違反、訴訟の有無

環境関連法規制等の遵守状況 法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	規 制 内 容	適用される施設物品等	適用される法規制	規 制 内 容	適用される施設物品等
廃棄物処理法 (一般廃棄物)	- 一般廃棄物の収集運搬業者への委託 - 契約（覚書）及び許可証写し保管（許可期限切れ更新）	一般廃棄物（紙くず、段ボール、厨芥、包装等）	資源有効利用促進法	- 別名：リサイクル法 - 使用済パソコン等のメーカー回収義務	社内パソコン
(産業廃棄物)	- 委託先許可業確認 - 収集運搬・処理業者との契約（委託契約・産廃管理票発行・5年間保管） - 産廃保管基準、保管置場の表示 - 産業廃棄物管理票交付等状況の行政報告 - 自社による運搬時の表示・書類携行 - 多量排出業者、産廃処理計画・実施状況報告書提出、特別管理産業廃棄物管理責任者の設置	廃プラ 金属くず 廃油 廃酸 コンクリートくず	騒音規制法	特定施設の届出 空気圧縮機7.5kW以上。規制基準の遵守	空気圧縮機7.5kW 2台
			毒物及び劇物取締法	- 事故時連絡 - 保管場所の表示 - 盗難、流出防止	硝酸
			労働安全衛生法	有機溶剤の適正な管理・SDSの周知	塗料用溶剤
浄化槽法	- 設置届出・浄化槽の維持管理 - 定期点検・定期清掃・定期水質検査	合併浄化槽	フロン排出抑制法	- フロン類回収・破壊の適正取扱い - 業務用エアコン・冷凍冷蔵庫管理者の簡易・定期点検、漏洩量行政報告義務	業務用空調設備 コンプレッサー
自動車リサイクル法	使用済み車は引き取り業者に引き渡す。新車購入時にリサイクル費用を支払う	自動車			
家電リサイクル法	家電製品の廃棄時にリサイクル料金支払い	TV、冷蔵庫、家庭用エアコン			

環境関連法規及び条例等への違反、また訴訟等の有無について、2023年6月30日に確認した結果、法律違反等はありません。

また、地域住民からの訴訟や苦情や要望などは創業以来ありません。（2023年6月30日現在）

9. 代表者による全体の評価と見直し

1. 環境活動の取組み結果の評価

○産業廃棄物の削減に付きましては、資源の仕分けやペーパーレス化などで、確り出来ています。

○電力削減では、本社工場は出来ていますが、宮崎工場にエアコンを設置したことで、電力使用量が増えております。今後も、適正な温度設定と空調服などを併用して、電力削減に取り組んでいきましょう。

2. 実績の評価

電力削減・・・照明のLED化も進んで効果は出来てきています。今後は、風の効果を利用した空調などにも取り組み、より一層の削減に取り組んでいきましょう。

自動車燃料等の削減・・・大阪営業所以外は達成できていますが、コロナの影響で営業の自粛が大きく影響していると思われます。今後も、急発進、急加速などをせず、省エネ運転に取り組みましょう。また、WEBを利用した営業活動も今後は、進めていきましょう。

産業廃棄物・・・年間のリサイクル率は87%から92.2%に向上しました。今後も、仕分けを確り行って資源の回収に取り組んでいきましょう。

水資源の節水・・・本社工場は目標の184m³から192m³と3.2%増加。宮崎工場では目標175m³から170m³からと4%削減できています。今後も雨水の利用を行い削減に取り組んでいきましょう。

化学物質の適正管理及び清掃・・・毎月適正に管理できました。清掃に於いては目標36回に対して48回と多く清掃活動が出来ました。今年は特にNGK関係が増えたために、塗装の量が増えました。今後も、在庫量の適正化に取り組んでいきましょう。

環境配慮製品の開発販売・・・自動車業界が半導体不足による生産減産を行っていたので、目標に大きく達しておりません。今後は力を入れていきましょう。

地域清掃活動・・・毎週の地域清掃及び向上周りの清掃ができています。今後も、公民館などの清掃を行ないましょう。

3. 今後の取り組み・・・その他大きな変化はなかった。

温暖化現象により、洪水などの自然災害が増えています。又世界各地で地震が発生しており今後30年以内に南海トラフ地震も80%の確率で発生すると言われています。

社内のBCP対策を行って、自然災害、パンデミック、サイバー攻撃などの対応作りを行っていきましょう。

1. 環境経営方針の周知

2021年度の工口の活動報告

よろしくお願いいたします。

[illegible][illegible]

13

2. 環境関連法規の遵守



年一回の防災訓練を行いました。

今年の防災訓練は、地震が発生しその後本社 食堂から出火と想定して、火災報知機も実際鳴らしました。
また、フクシゲ防災様から、消火器の使い方を習い、水入りの消火器で実践しました。



酸洗いの液が流出した場合の対策
の勉強もしました。



毎年、火災警報器の点検と消火器の点検をしています。
火災報知機の取り扱いについても学びました。

出張・研修・仮払申請書

出張精算書

出張者氏名

出張先

出張期間

出張事由

出張経路

出張費用

出張精算書

出張者氏名

出張先

出張期間

出張事由

出張経路

出張費用

出張精算書

電子化

出張・研修・仮払申請書

出張精算書

出張者氏名

出張先

出張期間

出張事由

出張経路

出張費用

出張精算書

出張者氏名

出張先

出張期間

出張事由

出張経路

出張費用

出張精算書

2021年度まで「交通機関予約依頼書・仮払申請書・出張精算書」を紙媒体での提出でしたが、2022年度からは、チームズを利用した申請方法に切り替え紙媒体での提出削減に心掛けました。

3. 二酸化炭素排出量の抑制



社有車は、全社で13台の内ハイブリッド車が、7台あります。安全を配慮してオートマティックにし、カーナビを取り付けました。



各場所のエアコン 室外機遮熱にカバーの取付を行いました。

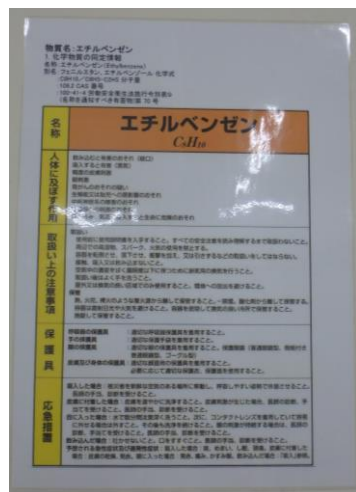


4. 資源の効果的活用の推進



事務所で集めた古切手は、川内なでしこライオンズクラブへ贈呈し、インクカートリッジはエコリカで回収してもらいます。

5. 化学物質の適正な管理及び清掃



塗装場はいつも清掃を行ないチェックリストに記入しています。

在庫管理もしっかりしてあり、余分な在庫は置かないようにしています。

塗装料を使う時の、注意書きも貼り出しています



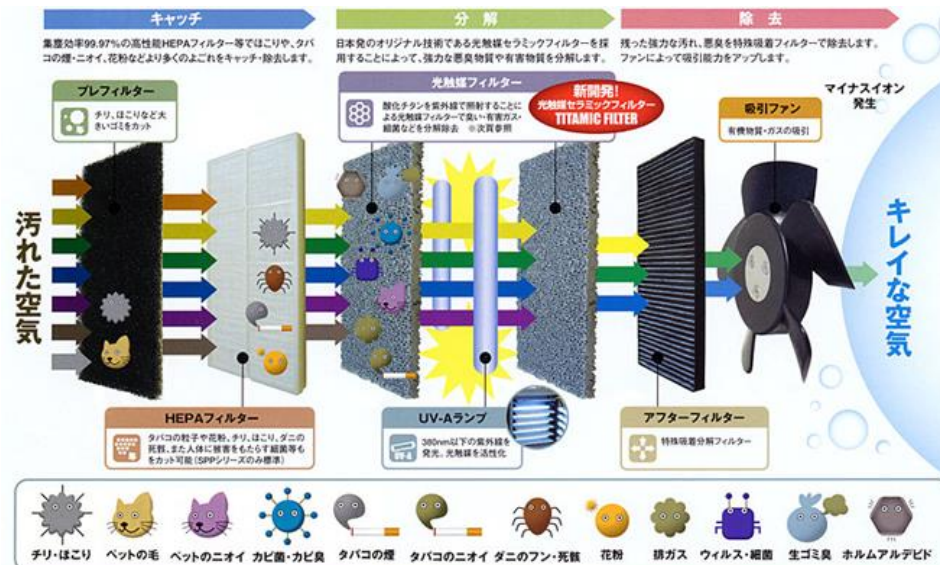
6. 製品への環境配慮

6-1. 環境配慮型クーラント製品の開発・販売



マグネットコンベアーは、機械部品加工会社の機械に取り付けて、切り粉をクーラント液の中から自動的に取り出すことによって、クーラント液の寿命を延ばし、クーラント液の使用量を減らす効果があります。(廃液が減る)

6-2. 除菌と消臭を同時に行う業務用光触媒環境浄化装置の販売



光触媒環境浄化装置（かざとキンとり君）は、業務用として介護施設や病院、空港施設など幅広く使用されています。もちろん、一般家庭用も使用されています。（かざとは、鹿児島弁で臭いです）



光触媒環境浄化装置は、家庭でも病院や介護施設、大学病院等幅広く活用できます。

7. 地域の環境保全事業への参加



社員駐車場・公民館の草刈りや、地域の清掃を毎週水曜日に行っています。



宮崎工場前の花壇も、みんなが苗を植えています。

